



優れた、より良い福祉コミュニティをめざして

ふれあいネットワーク

# まほろば 社協広報

第79号



## より良い避難所とは？

～避難所の運営を考える～

災害により自宅生活が困難になってしまった際に、地域住民が避難し生活する所が避難所です。

それぞれちがう生活スタイルの住民が一緒に生活するため、皆が快適に過ごせるようにするためには、どのように運営したら良いのか、避難所体験ゲーム『ひなた』を使って学びました。

詳しくは1～2ページをご覧ください。

日本赤十字社～140周年を迎えて～	1・2
山形村社会福祉協議会 新規事業の取り組み	3
ボランティア交流会/冬休み子どもひろば/ほほねっと企画公開セミナー	4
地域ふれあい交流事業(下竹田・小坂・中大池)	5
ボランティアグループの紹介	6
平成29年度会費納入結果・寄附等の紹介	7

# 日本赤十字社

## 日本赤十字社の歴史・あゆみ

### ◆赤十字の誕生

スイスの実業家アンリー・デュナンは1859年、イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノで4万人の死傷者に遭遇しました。

「傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である。人間同士としてその尊い生命は救わなければならない」という信念のもと、村人たちと協力して救護活動にあたり、この体験を『ソルフェリーノの思い出』という本にまとめ、

- ① 戦場の負傷者と病人は敵味方の差別なく救護すること
- ② そのための救護団体を平時から各国に組織すること
- ③ この目的のために国際的な条約を締結しておくこと

以上の必要性を訴え、この思想がヨーロッパ各国に反響を呼び、1864年に戦争犠牲者の保護・救済のためのジュネーブ条約が調印され、国際赤十字が誕生しました。

### ◆長野県支部の誕生

明治10年（1877年）、博愛社として成立された日本赤十字社は、各県へ「支部」の設置に取り組みました。長野県では明治22年（1889年）、県庁内に支部を設置後、明治32年（1899年）には、現在の地に事務所を建設し、赤十字思想の普及と事業拡大の拠点としました。

### ◆長野県支部の命を守る9つの事業

1. 災害救護：地震などの災害が発生した場合、医療救護班の派遣・救援物資の配布などさまざまな支援活動を行います。また、訓練や研修を実施し、防災・減災の啓発に努めています。
2. 国際活動：世界190カ国の国際赤十字の一員として、ケニア地域の保健強化、シリア難民の支援など人々の支援に取り組んでいます。
3. 赤十字奉仕団：各市町村の地域奉仕団や専門知識・技術を持つ特殊奉仕団など91団、31,000人の方々が県内各地でさまざまなボランティア活動を行なっています。
4. 青少年赤十字：県内の加盟校では、長野県教育委員会と協力し、防災教育プログラムなどを取り入れて防災力を高め、子どもたち自身の「気づき」「考え」「実行する」力を育てています。
5. 救急法などの講習：長野県の年間受講者30,000人以上を目標に、県内各地で開催し、健康・安全に関する知識と技術の普及に努めています。
6. 医療事業：県内6つの赤十字病院は、大切な命を救うため、緊急医療などを積極的に行い、地域医療を支えます。また、災害時にはいち早く医師や看護師を派遣します。
7. 看護師養成：長野と諏訪の赤十字看護専門学校では、赤十字理念の教育を通じ、豊かな人間性を育み、看護に関する幅広い能力を備えた救護看護師を養成しています。
8. 血液事業：病気の治療などで輸血を必要とする人を救うため、献血を受け付け、安全な血液製剤を24時間医療機関へお届けします。
9. 社会福祉事業：乳児院は、家庭で養育することが困難な乳幼児をお預かりし、健やかに育てるとともに、育児相談などの子育て支援も行なっています。

ところであります。

そして迎えた平成三十年——本  
分区にあっても、この郷土の先人  
の事績に見倣って、「赤十字活  
動」について新たな一歩を踏み出  
す絶好の機会であると捉えていま  
す。活動の原点に復り、身近な地  
域にあつて、諸事業や活動に勇気  
をもつて挑み、邁進していくこと  
としています。

その中でも、殊に「赤十字奉仕  
団の活動」の活性化を図るべく、  
只今、関係者と協議を重ねていま  
す。ここでは、日赤活動資金の募  
集活動に積極的に参画することは  
もとより、今日的課題にも着目し  
て、地域防災の活動への一層の取  
り組み、生活困窮者への支援活  
動、支え合い助け合いの輪を掛け  
ていくことも重要なテーマとして  
掲げています。

しかし、これらのことを推進し  
ていくためには、多くの村民の皆  
さんの一層の理解と協力が必須で  
あります。更めて、ここに、地域  
の皆さんの積極的な参加をお願い  
申し上げる次第であります。

日本赤十字社長野県支部  
山形村分区分区長  
本庄利昭

# ～140周年を迎えて～

## 山形村赤十字奉仕団の活動／ひなた研修

去る2月24日(土)保健福祉センターいちいの里研修室にて、日本赤十字社長野県支部より地域研修推進委員の方2名を講師に迎え、山形村赤十字奉仕団の研修として、避難所体験ゲーム『ひなた』が行なわれました。

例年、山形村赤十字奉仕団が団員のスキルアップとして救急法の研修を行なってきましたが、6月に参加した幹部研修で『ひなた』を体験した小林委員長が、「奉仕団員はもちろんだが、避難所を利用する住民や防災等に関わる機関に知ってもらいたい。」と考え、今回は一般参加型の研修となり、当日は赤十字奉仕団員の他に、民生委員や各地区の自主防災組織の会長、地域住民の方など約40名が参加しました。

『ひなた』とは、『ひな＝避難所』『た＝体験ゲーム』のことで、避難所の運営側として次々にやってくる避難者の状況や要望を考慮しながら、どのように対応すればよいかをゲームを通して学ぶものです。

この日は6つのグループに分かれて、学校（避難所）の平面図と避難してくる人が書かれているカードを使い、講師の先生が読み上げた内容を聞いて、体育館や教室のどこへ誘導するのかを考えました。

カードの中には、看護師の資格を持っている方や、インフルエンザにかかっている子どもがいる家族、奥さんが認知症の方、高齢で杖や車イスを使用している方、外国籍で日常会話程度ならできる方、妊娠している方、ペット連れの方など様々な内容が書かれており、杖や車イスを使っている方は出入り口に近い方がいいのか、外国籍の方は同じ地区の方が近くにいれば安心するのではないかと、インフルエンザにかかっている家族は感染している可能性があるから1つの教室に入ってもらおうなど、それぞれのグループでどの場所に誘導するのが良いか話し合いながら進めていきました。

避難所は、それぞれちがう生活スタイルの人がひとつの場所で過ごすため、一定のルール決めやそれを掲示する方法を考える必要もあり、しばらくその場所で生活をするため、あらゆる要望にどう対処していくかが避難所の運営のポイントになります。



ひなた体験セット

実際に『ひなた』を行なってみて、参加者の方から「実際に避難所を立ち上げる時になったら冷静に考えられるか…。練習が必要だなと感じた。」「色んな人が来るからどこへ入ってもらおうかシミュレーションが必要。予備知識が重要だと思った。」「ゲームの中ではテレビの支給があったけど、ラジオもあった方がいいと思った。」という声がありました。

講師の先生からは「実際に災害が起こった時に自分たちが避難する公民館などの平面図を使ってやってみると、もっと実感が湧くと思う。」「自分が健康でいなければ避難所に来られない。災害にあったら生き抜くことが必要。」「避難所を運営する側（スタッフ）は、常に笑顔で対応しなければいけない。」と講評をいただきました。

## 「赤十字活動」に 新たな一歩を



平成二十九年は、日本赤十字社創設から一四〇周年の佳節に当たりました。明治十年（西暦一八七七年）、「西南の役」が起こると、小松宮を総長に戴き、大給恒や佐野常民をはじめ、松平一族が協力して、「博愛社」を創設しました。以後、すべての人々の平和と幸福のために尽くし、明治二十年には「日本赤十字社」と改称されて、今日に至っています。

その中心人物の一人、大給恒（旧姓 松平乗謙）の功績は「日本赤十字の父」とも称され、今に語り継がれています。三河国奥殿藩主から幕府の若年寄・老中職などの要職を経て、長野県の龍岡藩知事も務められた方であり、郷土の先人としても知られます。当時の社会的課題に真つ向から挑戦し、大きな勲功を挙げられたことに対しては、畏敬の念を抱かされる

## 介護予防・日常生活支援総合事業

社会福祉協議会で平成29年度より始まった新規事業がどのように行なわれているのかご紹介します。

### 訪問型サービスA

訪問型サービスAは、従来の要介護認定で要支援1・2の判定を受けた方や、基本チェックリストにより生活機能の低下が見られた方が利用できるサービスです。

山形村では、地域包括支援センターへ相談していただき、上記のように事業の対象と判定された方が利用できます。

山形村社会福祉協議会のホームヘルプステーションいちいの里で行なう、訪問型サービスAで利用できるのは、調理や洗濯、掃除などの生活介護といわれるサービスです。

このサービスは、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる高齢者、介護認定に至らない高齢者の増加を目指したものです。よって自立度が高い方が利用対象者となるため、食事介助や排泄介助などの身体介護といわれるサービスは、利用することができません。

現在、ホームヘルプステーションいちいの里で対象となっている方は4名で、掃除や、ヘルパーが切った野菜などを利用者さんに調理していただく調理補助を主に行なっています。この他に、冬期はストーブの給油サービスもしています。

自立した生活、自分らしい生活をいつまでも続けていただけるように、これからも支援させていただきます。

### 生活支援コーディネーター活動事業 (村受託事業)

生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）には、高齢者に向けたサービスの新たな発掘や開発、生活支援の担い手となる人材の育成、行政や様々な機関・地域住民などとの関係の構築、地域の課題の把握と取り組みのマッチングなどの役割があります。

私たちは日々、皆さんの困りごとがどのようなところにあるのか、また、新たな住民同士の支え合いの仕組みを作るにはどんなことが必要なのか村内の調査、情報収集をしています。

『誰もが暮らしやすい地域』を創るための活動に取り組んでいきますので、ぜひ、住民の皆さんの『声』をお聞かせください。お待ちしております。

#### 今までの取り組み

地域包括支援センターとの定例会議、買い物調査、村内にある企業や住民、ボランティア等との会議（協議会）、情報交換会の開催、村内各地区への生活実態アンケート調査、いきいきサロンの訪問など

### 通所型サービスA

通所型サービスAは介護保険の要支援認定を受けている方、基本チェックリストによる事業対象者が利用できます。

「外に出かけたり、人と会う機会が少なくなった」「会話を楽しむことが減り、物忘れも多くなってきた」など、生活の中で心配がある方を対象としたサービスです。

サービス内容は、従来の通所サービスに準じ、総合的な予防事業をメニューとしています。

週1回、午前中2時間程度の利用で、送迎サービスはありますが、デイサービスセンターいちいの里での入浴サービスはありません。

パズルやクイズなどの脳トレをしたり、山形村健康体操で体を動かしたり、塗り絵や押絵、折り紙など、手先を使った軽作業、余暇活動を行なっています。また、夕食やお花見、紅葉狩りなどの外出も楽しまれています。

現在は2～5名の方がご利用されています。

興味のある方はお気軽に見学にお越しください。

利用対象曜日	月・水・木の午前中、どれか1日
利用回数	週1回
利用時間	10:00～12:00
利用料	自己負担額 1回304円
送迎サービス	あり
入浴サービス	なし

※祝日は休みとなります。

#### お問い合わせ先

デイサービスセンターいちいの里  
電話 0263-97-2102



## 『ぼらんていあ お見合い大作戦』～ボランティア交流会～

1月20日(土)、保健福祉センターいちいの里研修室にて、ボランティア交流会を開催しました。

今年度は、有償在宅福祉サービス『たのみま処』の協力会員さんや、ボランティア活動団体の14団体20名の参加がありました。

参加者は『百花繚乱』『猪突猛進』など、5つのグループに分かれました。

ボランティア同士の『個人の繋がり』を目的として、自己紹介の中で手芸や鉛筆画の紹介、歌声自慢、「今日は家からここまで歩いてきました!」という体力自慢など、ご自身の『ちょっとした自慢』を出し合いました。

今回は、フリータイムの時間で、ボランティア活動用の名刺を交換し合い、参加者同士の交流をさらに深めました。

参加者からは、「周りの方の特技が参考になったので、私も試してみたい!」「前向きな方がたくさんいて、刺激を受けた」「お互いの特技を活かして何かしてみないか」などの声が聞かれ、お互いを知るきっかけから、今後の活動に活かすことができそうな機会となり、とても有意義な時間となりました。

※有償在宅福祉サービス「たのみま処」は、『ちょっとしたお手伝いがあれば住み慣れた家で安心して生活できる方』と『地域のために空いた時間にちょっとしたお手伝いをしてくださる方』とが会員となり、『地域の支えあい・助け合い』をサポートをする事業です。



自慢の手芸品を紹介

## 冬休み子どもひろば開催!

1月5日(金)、下大池コミュニティセンターにて「冬休み子どもひろば」を開催しました。

今年度は子ども22名、ボランティア17名の参加がありました。

子どもたちはお餅つきや凧作り、福笑い、書初めといったお正月ならではの活動を、ボランティアさんと一緒に行ないました。

おやつには焼き芋や焼きリンゴを作り、みんなで温かい火を囲みながら、寒かった1日をポカポカと楽しく過ごすことができました。



ボランティアさんと餅つき「よいしょ!!」



みんなで福笑い「もうちょっと上かな?」



「自分たちで焼いた芋はおいしいね!」

## 第6回 ほぼねっと企画／公開セミナー ～アマニ料理の食事会～

ほぼねっと企画ではアマニの栽培、アマニの活用法講座など、年間を通して行なってきました。

6回目となる今回は、1月27日(土)講師にシュラーク ティル氏(ジオランド/上大池在住)をお招きし、アマニ油やアマニの種を活用した調理法をデモンストレーションで学びながら、食事会を行ないました。

村内外より集まった23名の参加者は、講師の先生への質問や、情報交換をしながら和やかに学んでいました。参加者同士の会話も弾み、「はじめてアマニ料理を食べさせていただきました。」「アマニは体にいいと聞いていたが、使い方がわからずいたので参考になりました。」「自分でもアマニ料理を作りたいと思います。」「他の講座にも是非参加したいので企画してください。」との声が寄せられ、アマニの魅力を再発見する機会となりました。

今後もセミナーの開催などの取り組みを継続していければと考えておりますので、お楽しみに!



試食をしながらレシピの確認中



アマニを使ったディップソースでどうぞ!

## 地域ふれあい交流事業

### 下竹田「ふれあい活動」

1月28日(日)、「今年度は例年とはちがう企画で、子どもから大人まで多くの方に楽しんでいただきたい」という社会部からの提案で、下竹田公会堂にて『マジシャン叶音 マジックショー♪』が開催されました。

スモークやカラフルな照明を使った、いつもとちがう公会堂の幻想的な雰囲気の中、宙に浮くテーブルや、ありえないサイズのカバンが空の紙袋から次々と出てくると、会場からは「おお～！」という歓声が挙がりました。

観客参加型のマジックでは、参加したい子どもを募り、指名された子どもが渡されたハンカチに絵を描きました。そのハンカチを叶音さんが自分の手の中に押し込むと、火と同時に一瞬で手から消え、事前に子どもにプレゼントしていたパンの中からハンカチが出てくると、目を丸くして『はっ！』と驚く子どもの姿に、会場がほっこりと和みました。

普段なかなか見ることができないマジックショー。子どもから大人まで一緒に楽しむことができました。



叶音さんによる  
マジックショー

### 小坂「冬のあったか広場」

2月18日(日)、小坂公民館にて、村内で結成されたコミックバンド『DOGGYSTYLE (ドギースタイル)』と、名古屋市を中心に活動し、長野県出身者のいるお笑い芸人『ファンタジーモーニング』による「小坂冬のあったか広場～小坂わろてんかライブ♪～」が開催されました。

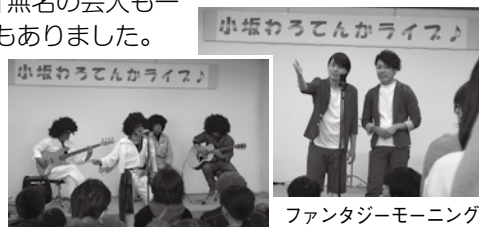
DOGGYSTYLEのギターやベースの生演奏と、歌や軽快なトーク、さらにはマジックまでする多才ぶりに、会場が笑いであたたまりました。

自称アメリカ帰りのお笑い芸人、ファンタジーモーニングのなぜか詳しい長野ならではのご当地ネタや、観客を巻き込んだ漫才に会場は大いに盛り上がり、“お笑い”を存分に楽しめた時間となりました。

参加者と出演者が一緒に行なった社会部企画のお絵かき伝言ゲームでは、お題の「やまっち」がうまく次の人へ伝わらず、最終的には会場にいたお客さんの顔に変わってしまい、なかなか伝わらない伝言ゲームに、会場は爆笑の渦に包まれていました。

参加者からは「プロの漫才はやっぱ違う。」「おもしろかった。」「無名の芸人も一流にしてしまう山形村の地域性にあたたかさを感じる。」という感想もありました。

社会部部長の上條孝次さんからは、「小さな子どもからお年寄りまでの区民のみなさんが楽しめる企画として、今回初めてお笑い芸人を呼んだ。来てくれた皆さんに喜んでもらったことが嬉しかった。色々な人の協力があり、盛り上がった『あったか広場』が開催でき、本当によかった。」と会場が一体となり、世代を超えたあたたかい交流ができたことに笑顔をみせていました。



ファンタジーモーニング



DOGGYSTYLE

### 中大池「お達者ふれあい会」

2月18日(日)、中大池語り部の館にて、「お達者ふれあい会」が開催されました。

今年度は社会部の皆さんから「中大池らしい手作りのイベントを!!」との提案があり、山形村社会福祉協議会の職員も企画に加わり、手作り感あふれるアットホームな「ふれあい会」となりました。

分館長の上條利之さんのあいさつに「これからは、地域の支え合いが大切になってくる。顔の見える関係を大事にしたい。」との言葉のとおり、各社会部員のあいさつの中に、一人ひとり「〇〇(世帯主もしくは屋号)のところの△△です。」という中大池ならではの自己紹介を入れると、参加されていた方からは「あ～、あの〇〇さんの家の人かね～」と馴染みの名前を聞き、会場は親近感から和やかな空気に包まれていました。

その後、社会福祉協議会の福祉活動専門員による頭の体操・レクリエーションを行い、心と身体を温めてから長寿のお祝いに、参加者の皆さん全員で太巻き寿司づくりに初めてチャレンジ!

『長寿太巻き寿司』は、約4メートル超と長いものでしたが、さすが!!長年の経験を活かした技が光り、周囲の心配をよそに慣れた手つきであっという間にきれいな太巻き寿司が完成し、とても心温まるイベントとなりました。



頭の体操「あ!間違っちゃった」



長寿を祝ってなが～い太巻き

## ボランティアグループの紹介

～指定福祉活動支援助成金（共同募金財源）を交付している団体を紹介します～

### 暁岳流日本吟道館山形道場 堤 恵子（雅号：堤恵風）

私達は大槻昭岳先生に師事し、月に2回土曜日の午後、いちいの里で吟詠を学んでいます。

福祉施設への慰問や、山形村の文化祭をはじめ松本市、塩尻市、長野県などの芸術祭に参加して学習成果を発表しています。

教室以外でも食事会・カラオケ・マレットゴルフ・宿泊等々交流会を企画しています。また、詩舞・剣舞を含めた暁岳流の審査会（昇段試験）や温習会をはじめ吟友の集いや、吟友フェスティバルでは他教室間との交流を深め、刺激し合いながら日々精進しております。

詩吟は漢詩に一定の節をつけて吟じることですが、吟詠には、漢詩に留まらず①漢詩②俳句③和歌④短歌⑤歌謡吟詠⑥新体詩があり、広く学んでいます。

暁岳流初代宗家 中村暁岳先生は「吟じるとは、作者の心を己の心とし、感極まって腹の底から訴えるうめき、嘆き等々止むに止まれない人間、自然の感情が口を衝いてほとぼしり出る叫びである」と話されています。

吟詠を続けることは、心肺機能や嚥下機能の強化鍛錬ができ、また直立姿勢の保持により、脊柱の変形防止や、詩の暗記による脳の活性と認知機能を高める効果があります。

身体面だけでなく、詩を読み解き、作者の心境に入り、感情を表出し吟じること、豊かな感性を磨き、情緒面でも沢山のメリットがあります。

吟詠は、道具はいりませんので趣味としては健康につながる最高のアイテムです。

メンバーは60歳代です。大きな声を出しストレスをためることなく皆楽しんでおり、いきいき、はつらつとしています。きっと健康的な老後が約束されると信じています。

大槻先生からは「一日一回声を出し、同じ吟題を何度でも吟じること」と教えていただいております。「たゆみない錬磨により、順次“心技”共に洗練され、個性味豊かな品格の高い吟詠」をめざしメンバー一同、時を重ねながらチャレンジしているところです。

吟詠に興味のある方一緒に楽しみませんか。お待ちしております。

☆活動開始 平成22年10月～  
☆会員数 5名  
☆活動内容 詩吟普及活動



お問い合わせ先  
代表者：大槻昭義（雅号：昭岳）  
電話：090-4935-7083

# 平成29年度／山形村社会福祉協議会会費(賛助・特別)納入結果

社協会費の納入にあたりましては、皆さまより温かいご協力をいただき、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。(平成30年3月17日現在)

## ●山形村社会福祉協議会／賛助会員会費（1口／3,000円）

賛助会員数	52人	加入口数	57口
-------	-----	------	-----

## ●山形村社会福祉協議会／特別会員会費（1口／10,000円）

本年度納入口数／（45口） (敬称略)

4口	JA松本ハイランド山形支所		
3口	横山医院	(株)ヤマジン	(株)小林創建 サンリン(株)
2口	森井自動車(株)	みやざわ設備(有)	(有)竹田の里
1口	(有)丸八種苗園 (株)丸五山形食品 (有)山辺鉄工所 (株)川上建設 山形協立診療所 宮原医院 平沢土建(株) (有)佐和工業	(株)WILL 小林自動車 (有)花岡電子 (株)オーイク (株)美野里 (有)タカヤマ住設 (有)親和住宅 山形村商工会 (株)井上アイシティ21店	松本信用金庫波田支店山形出張所 (株)フロンティア長野営業所 (株)籠田工務店 天理教信濃山形分教会 美容室びーと タカサワ通商(株) 山形整形外科クリニック

## 委員会活動で集めた収益を福祉施設へ



2月14日(水)、松本市山形村朝日村中学校組合立鉢盛中学校にて、福祉交流委員会による、アルミ缶・ペットボトル回収で得た収益の贈呈式が行なわれました。

贈呈式では回収活動の様子や、山形村社会福祉協議会の各事業所に交流に来た1年4組の様子をテレビ放送で振り返り、福祉交流委員長中川さんより「来年度も全校の皆さんが、アルミ缶・ペットボトル回収に参加し、その収益を地域の福祉施設に贈ることができるように引き続き活動を進めていきたい」と抱負を述べていました。

社会福祉協議会では、皆さんからいただいた収益**13,629円**を地域福祉活動に活用させていただきます。

鉢盛中学校の皆さん、ありがとうございました。

## 社協への寄附金等の紹介

【平成30年3月9日現在／敬称略】

### 寄附金

- 鉢盛中学校生徒会
- 古川寺観音奉賛会
- 村内小坂匿名希望1名
- 宮地完行
- 宗教法人 見性寺
- NPO法人日本入れ歯リサイクル協会

**合計114,249円**

### 物品

- 村上隆文……日用品
- 山口卓也……日用品
- 倉沢純代……お茶、日用品
- 斉藤正子……お手玉
- 永田順子……衣料用洗剤
- 古畑栄一……折り紙、色画用紙
- 古畑房子……介護用品
- 平沢源長……介護用品
- 中川廣……介護用品
- 匿名希望1名……タオルなど
- 小林信彦……介護用品
- 塩原雅子……介護用品
- 村田寿子……介護用品
- 大澤富久子……介護用品
- 山形村民生委員児童委員協議会……雑巾
- 鳥羽敏子……クラフトの籠
- 寺島敬子……キルティングの布
- 村内下竹田匿名希望1名……ワイシャツ等

## まほろば

(社協広報／第79号) 平成30年3月23日発行

●発行所 社会福祉法人 **山形村社会福祉協議会**(山形村保健福祉センターいちいの里内)

〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村4520番地の1 ☎0263(97)2102 FAX0263(97)2108

ホームページアドレス <http://poponet-yamagata.or.jp/>

●「まほろば」に掲載できなかった記事についてはホームページに掲載されていますので是非ご覧ください。

この印刷物は植物油インキおよび再生紙を使用しています。